

大船渡発

「吉浜道路」工事現場を中学生が見学

三陸の復興へ向け整備が進む自動車道、「吉浜道路」の工事現場を地元、大船渡市三陸町の中学生が見学しました。見学は三陸縦貫道の一部となる、「吉浜道路」の建設工事を「体感」してもらおうと企画され、建設業者で組織する協議会が越喜来中学校の生徒35人を招待しました。吉浜高架橋では高さおよそ40メートルの橋脚を見学し、吉浜トンネルでは370メートル進んだ先の掘削最先端へ。トンネル内の地質や工事の施工方法について説明を受けました。生徒たちは「自分たちが免許を取るときには出来上がっていると思うので、橋やトンネルなどを車で走れることを楽しみに待っている」「どんどん復興が進んでいると思った」と話していました。吉浜道路は今年度末までに橋が完成し、来年度は道路の舗装へと進む予定です。(4/18 ニュースエコー)



三陸ジオパーク構想 認定を申請

三陸沿岸の豊かな自然や文化を活用して、観光の活性化を図ろうという「三陸ジオパーク構想」について、関係団体が「日本ジオパーク」への認定を申請しました。22日は「三陸ジオパーク推進協議会」の会長である山本正徳宮古市長が会見を開き、日本ジオパーク委員会へ加盟の申請書を提出したと発表しました。ジオパークは貴重で美しい地形が見られる自然公園の一種で、三陸ジオパークは青森県八戸市から宮城県気仙沼市までを対象とし、津波の被害を示す遺構の保存も内容に盛り込んでいます。日本ジオパークには現在25の地域が認定されていて、そのうち北海道の洞爺湖有珠山など5つは世界ジオパークに認定されています。観光客の増加も期待される日本ジオパークへの認定は、審査を経て今年9月に判断が示されます。(4/22 ニュースエコー)



釜石・鶴住居の防災センター

被災原因を究明へ

東日本大震災で、避難した住民100人以上が津波の犠牲となった、釜石市の鶴住居地区防災センターについて、23日被災の原因を究明する調査委員会の1回目の委員会が開かれました。調査委員会は学識経験者や弁護士、遺族ら7人で構成され、1回目は今後、検証が必要と思われる項目について意見を交わしました。委員からは「市と住民との間で津波への情報や認識にずれがあり、その点を明らかにする必要がある」「避難場所ではないところに避難した事例はほかにもあり、調査して市の危機管理の実態を明らかにすべき」といった意見が出されました。委員会では今後、住民や生存者への聞き取りを行い夏ごろ報告をまとめる予定です。(4/23 ニュースエコー)



大船渡発

災害公営住宅 入居契約始まる

大船渡市に完成した災害公営住宅で、24日から入居の契約が始まりました。入居の契約が始まったのは、市町村が発注した災害公営住宅としては県内で初めて完成した、大船渡市の「田中東団地」です。田中東団地は2DK4戸が入る木造住宅が3棟並び、地元気仙大工の技術を取り入れた屋根や破風が特徴です。また段差が少なく高齢者も住みやすいつくりとなっています。田中東団地では5月1日をめどに、全ての入居者の契約が完了する予定です。(4/24 ニュースエコー)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.abc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122